

市民参加実施記録

案件	第七次伊達市総合計画策定に係る住民懇談会
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	・平成29年12月12日（火）18時30分～20時10分 ・黄金地区コミュニティーセンターはまなす館
所管部課名	企画財政部企画課

【概要】

<出席者>

市：企画財政部長、教育部長、議会事務局長、企画課長、財政課長、事務局（企画調整係）

住民：32名

1. 開会
2. 企画財政部長挨拶
3. 説明（事務局から資料に沿って説明）
4. 意見交換

【住民】

人が減ってお金がなくなるとどうなるか。第六次伊達市総合計画で黄金は伊達市の入口だから綺麗にすると書いていた。今回は各地域で計画を立てず全体的にどうして欲しいとなると人口を増やして欲しいしかない。どうしたら増やせるかを皆さんで真剣に考えていく必要がある。伊達市で就職する場所がないので、若い人が喜ぶような雇用の場を考えていかねばならないことや、若者が遊べる場所などを考えていかないとだめだと思う。

【住民】

今の話と関連するが、達南中学校が閉校し、黄金小学校もいづれなくなる。学校跡地の活用方法について、民間の企業が手を挙げていると聞いた。企業がくると人口増に繋がるが、残念なことに学校がなくなると若者が来たいという地域ではなくなる。全市的に考えるとまちなか・有珠・黄金を同じに考えていけるかどうか。今ある問題を潰していかないと計画を立てても10年から15年後は絵に描いたぼたもちになると思う。

【住民】

資料の人口推計値の2035年から2040年の年少人口が増えているのはなぜか。

【事務局】

人口の将来推計については、国立社会保障・人口研究所という国の機関が出していて、それらを一般的に使っている。2年前に地方創生をキーワードとして地方を活性化させるため、将来人口を増やす施策を自治体が考えて、人口展望も色々行い増やす計画を伊達市もその推計を使って作成した。その時のものをベースに今回資料を作成した。合計特殊出生率という数字があり、女性が一生のうちに子どもを産む数だが、その数字が2.1であると人口は減らないという基準であり、伊達市は1.4だった。その数字のままいくと減り続ける状況になるので伊達市として地方創生の計画をたてる時、1.4より高い数字になるような取組をしていこうという計画にした。将来的に維持できるほどではないが、子どもが少しでも増えるような率を上げた推計となっている。将来的には子どもの数がこの時期になると増えており、国の機関が出した数字も維持となっている。

【住民】

10年後、20年後の数字だが、国全体がそうだからとその現状を当てはめていっても意味がない。国全体の人口が減っていくのは当たり前なので、身近なところに視点を置いていただき、皆で地に足がついた話をしていくほうがより立体的ではないかと思う。入りは多く、出は少なくし、出るところをどのように少なくするか、入るものをどう増やすかなど具体的な策を考えないといけないと思う。話だけを聞くと市民税があがるのかと感じた。

【事務局】

現実的にしっかり考えるというご意見をいただいた。実際出を抑えるというイメージをした時に、具体的に思いつくものはあるかお尋ねしたい。我々も当然考えなければいけない。

【住民】

出ていくお金についてその他明細はこちらではわからないが、市でどんな策を考えているか教えて欲しい。

【住民】

懇談会なので市の方針や予定があって、それについての説明があるのかと思っていた。人口減や財政減の資料2つで話すことになっているが、何から話していいか戸惑っている。概略の説明は懇談会で出す予定はなかったのか教えて欲しい。

【事務局】

現在市民の皆さまから様々なご意見をいただいている。いただいたご意見を反映・参考にするためこれから原案を作成し、来年の5月以降に説明会の予定をしている。原案をもとに説明会を実施し、案に対してのご意見をいただく場をあらためて設けさせていただく。本日は前段で黄金地区と市全体のご意見をいただくため懇談会を開催させていただいている。

【住民】

人口減が本当にリスクなのか。人口が減ってもやり方によってはまちづくりができるという考え方はないのか。収入が少なくなり住民のリスクや不幸に即繋がるのであればどういう手当てをするかが七次総合計画の考えでうまれてくるのではないかと思っている。人口減は避けられないが、住民生活を大きく圧迫するものであればそのリスクをどう除いていくか考えなければならない。住民がそのリスクをどう分担していくかということがでてくるし、どうしても何か住民がしなければならないことがあるなら住民同士の話し合いをしていかねばならないだろうと思う。本日出席の皆さんは経験がたくさんあると思うし意見もあるとおもう。市長が、住民の自発的参加についてよく話をしているのを聞く。地域というのはそれを負担して活動計画を立てなければいけない。自治会等を中心にどうやって黄金地区を作っていくかを考えていかねばならない。今まで地域で話し合う機会はなかった気がするので、連合自治会と住民の意見を吸い上げる方法を色々考えたほうが良いのではないかと思う。人口・まずはお金をどうするのか。人口減、あるいは働く人の減少といえば、65歳から高齢者という考え方だが、この先ずっと2040年代までかわらないものなのか。65歳はまだまだ働ける年齢であるし今後も働ける。もう少し70歳くらいまでのびるかもしれない。70歳も働くことができ、まちづくりに参加できるなどそういう推移も含めて考えていってほしい。

【事務局】

人口の部分だがそのとおりである。行政的な話になるが、今の福祉の制度や統計の仕組みが、3つの年齢構成で分けられていてずっと統計をとっており比較しやすいようにこの年齢で分けている。現実的にいうと15歳から働いている人は少ないし、65歳70歳で働いている方は常態化してきている。子どもの数が減っていても保育所の入所者数は増え続けている。高齢化率が高まって生産年齢人口は減っているが税金を納めている市民は増えている。女性の社会進出や60歳定年が年金の年齢の遅延によって60歳すぎても働いている状況としてでている。今回の計画でもそのことを踏まえて考えていかなければいけない。

【住民】

何を残していったらいいかをこの地域みんなで考えていきたい。本当に取り組むなら地域の懇談会や説明会を繰り返してほしい。

【住民】

学校は子どもが少なくなり小学校は2年後になくなる。学校の跡地をどこかの会社で取得したいと聞いた。お金だけを考えたら市にとって収入にはなるが、どんな内容の会社で環境への影響など住民はわからない。伊達市が跡地を業者に丸投げするのではなく、公共の施設を作りたい。例えば室蘭や苫小牧は大きな公園がたくさんあるが、伊達市は一極集中と感じている。黄金小学校跡地にスポーツ公園というか遊具などがたくさんあって、親子連れやお年寄りが散歩できるような公園を作って頂き、活性化の意味での利用をして欲しい。黄金の人数は少ないが住民税を払っている。山のほうは光回線が入っていないなどそれぞれ我慢して暮らしている。学校がなくなって残念だが、跡地は有効に活用してほしい。

【住民】

市民アンケートにも記載した。人口推移データでは総人口が減っているが年少と高齢はそう大きな変動はない。生産年齢人口が減り、財政にリンクしていくことはある。交付税も人口算定をしているのがあるかと思うが、地方交付税も人口が減っていく以上に減る一方である。いくら住んでいる人間で潤っていかうと目指しても厳しく、やはりここだけではなく、よそのものも導入する、人であり財政であり検討の余地があるかと思う。細かい交付税補助金制度などあると思うが、有効に活用して市民に還元していただければありがたい。

【事務局】

雇用の場をもって人口を誘導するのもひとつであり、やっていくにはどうしたらよいかというところで、これから色々と考えていかねばいけない。今後の計画でどれだけ考えていくか、皆さまからのご意見をいただきたいというのがこの場を設けた目的である。アイデアをだしていただければということでお集まりいただいた。

【住民】

跡地への構想に対して、具体的にすぐできるとかは誰も考えてはいない。意見を聞いて、これからの市の考えに組み込んでいきますという意見や感想がでるのか、それをみんな待っている。前向きなのかここで話しは終わるのか、そこらへんを皆さんは期待しているのだと思う。

【事務局】

学校の跡地については、企業からの連絡は事実である。来ていただいた場合は雇用がうまれるが、それについて優先するかそれとも憩いの場が必要か今後皆さんで協力しながら考えていく。

【住民】

だて歴史の杜構想がでたころ、ある説明会で伊達市の将来人口は55,000人として見込んで計画を立てていたと思う。それに基づいたのかわからないが、カルチャーセンター、宮尾登美子記念館、体育館、食育センターさらに現在も建設中のものがある。この結果によってお客様が来てプラス効果があるかもしれないが、箱物を建てた結果のランニングコスト（メンテナンス）が何千万円、何億という費用がかかっている。建てる時は国の補助で建設し、その後に関するメンテナンスが市の出費ではないかと思う。建てて客を呼んで維持管理費も含めてペイする計画しているのか。計画段階であれを建てたほうがよいという声を鵜呑みにして建設し、市民の税金となる。支出を抑えるには必要以上のランニングコストを考えながら有効なものを作っていかなければ、人口が減り財源も足りなくなる。どの資料をみても懇談会は財源がないことを市民に意識づけるための集まりに感じる。アイデアをだしてもお金がないならだめとなるのが目に見えている。お金がないなら知恵を出すという言葉があるように、皆さんが集まって知恵を出したとき、市が真剣に取り組んでお金をかけない状態でやってくれるという意気込みがいつも感じられない。市民の声を聴くのは大切だが市の考えがみ

えない。市の職員がどれだけ頑張っているのかが感じ取ることができないので、いつもしらけた雰囲気になってしまう。学校跡地についてもどれだけそれを真剣に考えてみようかと姿勢を見せる方が何人いるか。考えを示すのが大切である。

【事務局】

第六次総合計画のときの目標は5万人としての計画だが、当時は将来的に5万人ということで施設を作っていた。当時はそれでもまだよかったが今はご説明した状況である。財源がないので、今後ランニングコストを考えた施設運営で計画を作っていかなければということになる。財政が苦しいのでご意見を実行に移せないこともあるかもしれない。まさしくご意見にあったように知恵を絞っていただいてお金がかからない有効な施策はないのか。皆さんの協力を得ながら一緒に市民の方と協働で考えて行きたい。

【住民】

黄金地区で考えると若者がいない。消防団に若者をいれるのも大変である。黄金地区に住める場所を作って欲しい。黄金は室蘭からも伊達からも近いので、室蘭で働いている人も伊達に住んで欲しい。跡地に公園は賛成である。アスレチックとは言わないが、せっかく小学校には裏山があるので、それを有効活用するのはどうか。跡地に民間企業ができて伊達市に住んでもらわないと意味がない。黄金に住める環境を整えて欲しい。企業もできれば1社だけではなく多くきていただき、密集するようなかたちにしたい。自分が定年になった時の黄金地区が不安である。市から跡地を利用した人口増について何か案はあるのか教えてほしい。

【事務局】

黄金地区の跡地の関係は1社問い合わせがある。問い合わせ前は宅地造成可能な場所なので、黄金貝塚から学校に行ける道路を作るなど、宅地造成して人を呼んだらどうかなどを検討した。今後どうなるかはわからないが、見極めながらも少し見つめていきたい。子どもは東小に通い、親は室蘭に通勤可能な選択肢もでてくる。しかしまだ発表段階ではない。

だて歴史文化ミュージアムが建設されることにより、黎明観で行っている刀鍛冶や藍染や宮尾登美子記念館を1つの施設に集約し、集客できるような策を練っている。ミュージアムでは国宝級お宝を各地から集めて展示する予定である。そして物産館や関連施設を訪れてもらい、まちなかにも行ってもらうような方法ができないか考えている。今後パブコメもはじまるので意見があればどしどしぜひよろしくお願いしたい。

【住民】

出生率をあげるためにどうするのか。黄金には独身者がたくさんいる。市がバックアップして出会いの場を作って出生率をあげて、子どもを生んだ後に育てやすい環境を作って欲しい。子どもの親負担を減らす方策を市に考えてもらいたい。以前新聞に黄金駅は廃止になる可能性があるという記事があった。黄金駅前に市営住宅や道営住宅を作って駅の利用を多くしてもらったらどうかと個人的に考えた。郵便局も取扱量が少なくなりなくなるかもしれないと聞いている。我々もJRを利用すべきとは思いますが、車社会のためなかなか難しい。駅のそばに住宅があると通勤に便利であることから、整備していただき、駅の利用者を増やすことができると考えている。我々も考えなければならないが、市も色々考えていただきたい。

【事務局】

独身者の出会いをつくることについて、最近の若い皆さんは、合コンは参加しにくいと聞いている。いきなり男女の出会いという形ではなくて、何か一緒に、例えば農作業をするなど、同じ作業を行うことで、会話が生まれて交流に繋がっていく取り組みを試験的に今年から始めている。拡大して若い人が気軽に参加できるようなコミュニティの場を作る取組を来年以降もやっていきたいと考えている。黄金駅の利用者数は実際に極端に少ない。廃止の基準はJRから示され、黄金駅もはいつてはいたが、今回JRの発表では対象となっていない。路線がある間は廃止にならないと思うが、利用者が少ないとその恐れが拭えないので、JRを利用する取組も必要かと感じている。駅前の公営住宅は費用がかかる部分でもあり、市の施策としても今後も減らしていく予定であり所管課で検討している。バランスをみながら検討をしていかねばならない状況である。

【住民】

黄金連合自治会から達南中の跡地利用で提案書が出ていると思うので回答いただきたい。また、黄金小学校に対する要望書についても回答いただきたい。黄金小学校の跡地に企業がくると聞いているが、企業が地域にとってプラスになるのかマイナスになるのか教えて欲しい。

【事務局】

達南中、黄金小学校の跡地についての問い合わせ、要望書については連自協からいただいた。現在準備しており連合自治会と打合せしながら進めている。企業の黄金地区への影響については、就労についてはプラスにはなるが、詳しいことは聞いていないので、プラスマイナスについては話を聞かないとお答えできないが、黄金にとってマイナスとなる判断であればお断りするし、プラスでなければ来ていただく必要はないと考えている。

【住民】

黄金小学校の跡地について、市から企業に要望や条件はだしているのか。

【事務局】

まだ詳しい話はでていない。今後でたら、色々な話や条件をだすかも含め理事者とも考えながら判断したい。

【住民】

地域にとってマイナスになる企業とはどんなイメージで考えているか。

【事務局】

公害を撒き散らすなど、色々なことがある。企業の内容や計画などを聞いていかないとわからないので、今はプラスとかマイナスと判断するのは難しい。

【事務局】

実際に企業から話はきているが、現状として宅地としてなりうる土地である。企業を誘致する土地としては伊達市としては今のところ考えていない。企業に売るとなれば公売で、売る際にこちらからなんらかの条件をつけるなどこれから考えることになる。あとは応札してくれるところがあるかどうかを踏まえながらバランスを考え条件設定をして公売する。今お話がきている企業に必ずしも決まるわけではないのでご理解いただきたい。

【住民】

伊達市の方針としてはよく聞く話が、例えば効率化とかコンパクトシティという考え方などで作られている。となると黄金は切り捨てられる。効率、節減となると切り捨てられるのは地方となり黄金が対象になるかもと危惧している。子どもがいないし若者が住む場所がない、そして働く場所がない、高齢化が進めば高齢者は足がない、高齢手当が増えていき経費がかかる・・・そうすると市のまちづくりの方針と反する。予算を減らされ、削られる地域になっていくような心配がある。そうならないよう地域の要望をしっかりと受け止めていただきたいと思っている。この地域にあっては地域のコミュニティが大事で住民のつながりが途絶えないよう地域交流の施策や、工夫をして私たちが何をすべきか考えていきたい。

【事務局】

コンパクトシティという言葉がでてくるが決してまちなかに集めるのではなく、例えば有珠、長和、まち場、稀府、黄金とあるが、国道沿いに極力公共サービスを集めていくのは可能性としてはあるが、その地区のサービス低下は考えてはいない。コミュニティの部分で素晴らしい意見を頂戴したが、行政として地域を支える仕組みを作らねばいけないし、担い手の育成は市全体で同じ状況である。地域の皆さんで知恵をだしていただき、お互い支えあうのは必要となってくる。黄金は自治会がしっかりとしているので、その地区でこういった特性があり活動をしたら良いか、支援する仕組みを作りたい。

【住民】

伊達に引っ越して20年。伊達は気候がいいし退職後畑を作ろうかと夢を抱いてきた。いいところだと思っている。退職した人も自由に楽しく住める場所だとPRすべきだと考えている。本日の七次総合計画の前の状況をインターネットで調べた。黄金地区の地区別を行っていたと感心した。第六次伊達市総合計画はあと1年なので途中経過はどうなっているか聞いたかった。次回このような会議のときに第六次伊達市総合計画はこういう計画があり、こういうところが残っていて、第七次をこう進めていきたいという話になると皆さん理解できて意見もでるかと思う。

【事務局】

退職後の移住について、以前から公務員が多い。移住の取組も過去から進めている。地所に近隣にも情報が届くような形で取組は続けていきたい。七次総合計画策定にあたり、六次の評価・振り返りの部分だが、ご協力いただいたアンケート調査で第六次伊達市総合計画の満足度を聞いた。これから案を策定する中で、満足度が高い、不足する取組は何かなど確認しながら次の計画を策定していきたい。5月以降の説明会では背景も含めて説明していきたい。

【住民】

達南中から伊達中までのバスの経費を教えて欲しい。

【事務局】

約5千万円近く支払っている。

【住民】

黄金地区は伊達の一番端で高齢者が多い。市のバスのようなバスを黄金に置いて黄金の人が運営するなどできないか。朝と夕方は子どもたちのために、日中は高齢者が多いのでまちまで買い物や通院、土日の敬老会や子ども会でバスを利用など、高齢者が多い地域で市のバスを提供し、地域で計画的に運営して、地域に貢献するような考えの有無を教えて欲しい。

【事務局】

今後小学校の統合や、有珠からのバスもあり通学に約1億かかっている。その他にも市のバスの活用法など具体的ではないが話題がでている。コミュニティの再生や高齢者が利用するいい方法はないか提案がでている。運転手の確保も話題にはでている。

【住民】

黄金地区で実験的に行い、地域にプラスになれば大滝でも有珠でも同じことを同じ金額で高齢者も子ども会も土日で使えるような施策を試して、黄金地域を活性化していきたい。

【事務局】

色々と検討したい。黄金が先進的モデルになるかはともかく、バスの活用については検討の話にはでている。

平成29年12月開催

第七次伊達市総合計画に係る

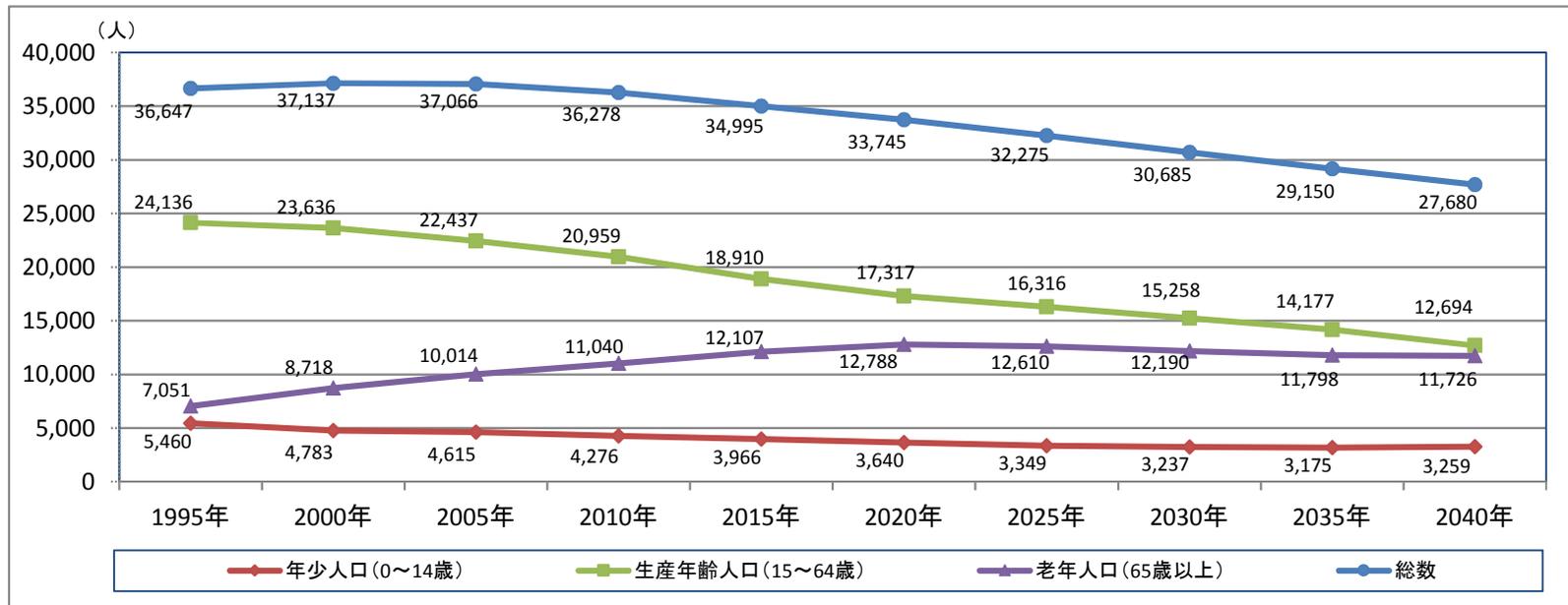
「住民懇談会」

伊達市企画財政部企画課企画調整係

■人口の将来展望

年代	実績値					推計値				
	1995年 H7	2000年 H12	2005年 H17	2010年 H22	2015年 H27	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
総数	36,647	37,137	37,066	36,278	34,995	33,745	32,275	30,685	29,150	27,680
年少人口 (0～14歳)	5,460	4,783	4,615	4,276	3,966	3,640	3,349	3,237	3,175	3,259
生産年齢人口 (15～64歳)	24,136	23,636	22,437	20,959	18,910	17,317	16,316	15,258	14,177	12,694
老年人口 (65歳以上)	7,051	8,718	10,014	11,040	12,107	12,788	12,610	12,190	11,798	11,726
うち 75歳以上	2,859	3,799	4,648	5,647	6,280	7,007	7,922	8,216	7,856	7,384

※2015年9月策定の伊達市人口ビジョン「人口の将来展望」に、2015年国勢調査結果を反映し再推計したもの。単位は「人」



■ 財政見通し

